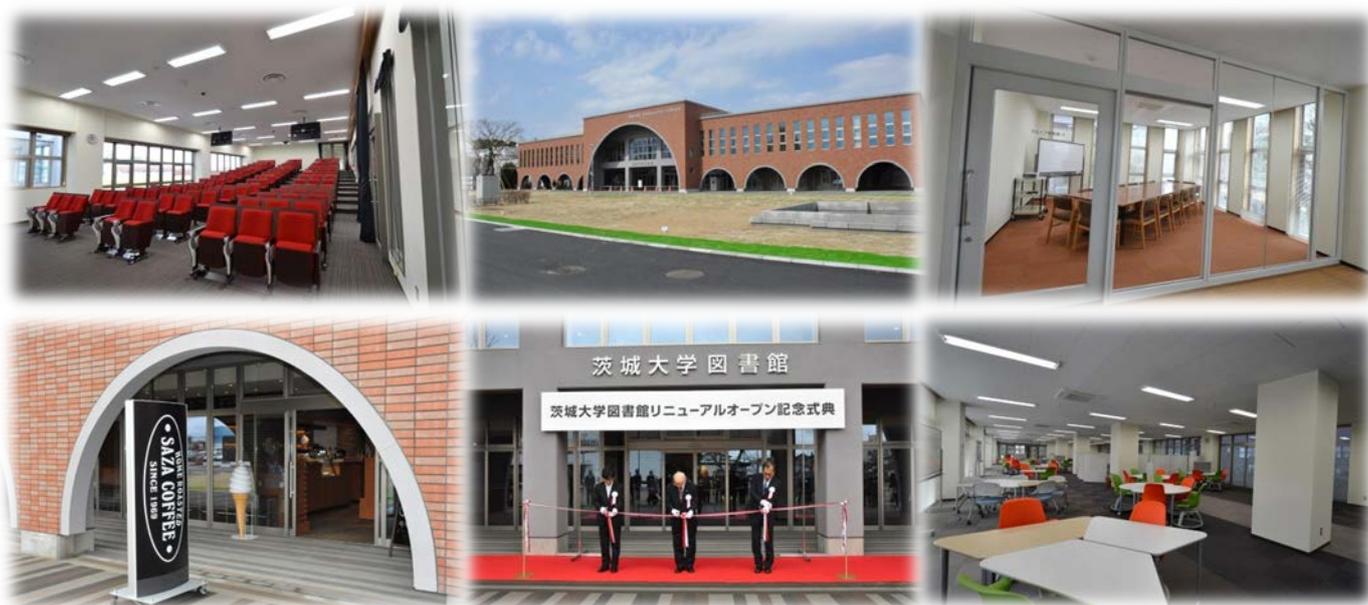


茨城大学学報

第314号

平成26年4月～平成26年5月



リニューアルオープンした図書館本館（水戸キャンパス）

INDEX

- ◆ 「社会連携センター」看板掲揚式を実施
- ◆ 平成26年度入学式
- ◆ 「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ2014」の開催
- ◆ 図書館本館増築・耐震改修工事竣工記念式典を開催
- ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催
- ◆ 図書館本館「リニューアルオープン記念コンサート」を開催
- ◆ 谷口基准教授(人文学部)が第67回日本推理作家協会賞「評論その他の部門」を受賞
- ◆ 社会連携センター発足記念シンポジウムを開催
- ◆ 教育学部教員養成課程の授業で「造形遊び」を実践

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 「社会連携センター」看板掲揚式を実施

平成 26 年 4 月 2 日（水）に、茨城大学社会連携センターの看板掲揚式を挙行了たしました。

社会連携センターは、茨城大学の掲げる目標「地域に支えられ、地域に頼りにされる大学」の実現に向け、社会連携・地域連携活動の拠点として機能強化を図るため、従前の社会・地域連携関係組織 4 部門（生涯学習教育研究センター、産学官連携イノベーション創成機構、地域連携推進本部、地域総合研究所）の再編・統合を経て、2014 年 4 月、本格的な活動を開始しました。



看板を掲げる（左から）影山理事、池田学長、
神永センター長、大久保学術企画部長

社会連携センターでは、社会・地域との連携・協働活動を通じて、より良き地域社会の創造に貢献していくとともに、本学の教育力（人材・就業力育成）と研究力の充実・向上を目的としています。

産学官連携イノベーション部門、知的財産部門、地域共生部門、生涯学習部門の 4 部門で構成され、各部門が連携することにより社会・地域連携機能の更なる強化が期待されています。

センターの活動を効率・効果的に実施するために事務部門の体制も整備し、学内に先駆けフリーアドレスオフィス方式も取り入れています。



社会連携センターの事務職員ら

◆ 平成26年度入学式

平成26年度茨城大学入学式が平成26年4月8日（火）、茨城県武道館（学部・専攻科）および茨城大学講堂（大学院）において、大勢の保護者および学内関係者らの参列の中、挙行されました。

式は、国歌吹奏、各学部等総代の誓書提出にはじまり、学長式辞、来賓祝辞、役員・学部長等の紹介と続き、入学生代表宣誓（農学部・藤野峻介さん、農学研究科・横山美里さん）より宣誓がありました。最後に参列者全員による校歌斉唱で閉式となりました。

入学生代表宣誓では、農学部の藤野峻介さんが「歴史と伝統ある茨城大学の学生としての誇りと自覚を持ち、自分自身を鍛えるだけでなく、社会に貢献し、仲間と共により良き未来を創っていくために日々修養を積むことを決意し、誓いの言葉と致します。」と決意を述べました。学部・大学院・専攻科を併せて2,201人の新生が入学し、それぞれの夢や目標に向かって新たな一歩を踏み出しました。



◆ 平成26年度入学式・学長式辞

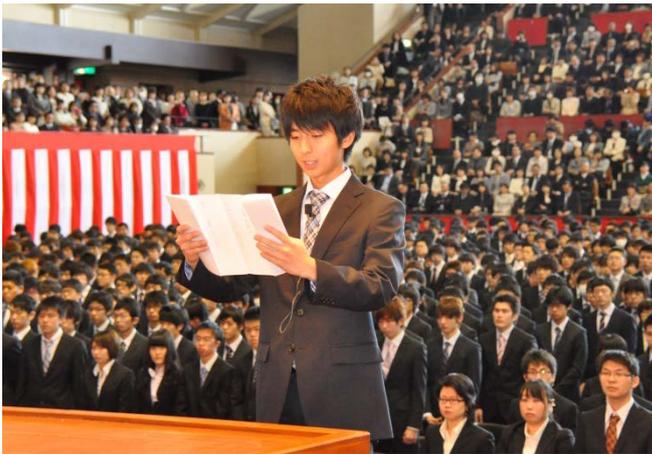
茨城大学長 池田幸雄

桜の花が咲き誇っている今日この頃でございます。寒かった冬も終わり、ようやく春めいて参りました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご両親を始め、ご家族ご親類の皆様にも、謹んでお祝いを申し上げます。本日は、平成26年度の入学式を挙行し、皆さんを茨城大学にお迎えできました事、私達教職員一同は大変喜んでおります。

皆さんご自身も晴れやかなお気持ちで一杯の事と思います。

新入生諸君は、厳しい受験競争を乗り越えて、本日より晴れて茨城大学の学生になりました。あなた方は、今日から一人前の若者として自立した生活を始める事になります。これからの4年間の学生時代は、あなた方の人生のうちで、最も自由で、最も活動的で、最も楽しく、そして最も実り多き時代です。大いに青春を謳歌して下さい。皆さんは、若者らしく希望に胸を膨らませて、茨城大学での大学生活を十分に楽しんで頂きたいと思いません。

茨城大学では、あなた方の自主自立性を大いに尊重致します。しかし、社会では、大学生を一人前の大人であるとみなし、あなた方に倫理的責任を厳しく求めるでしょう。諸君は自分自身で全ての物事を判断し決定する事になりますが、他人に迷惑を掛けないよう十分な配慮をしながら、行動しなければなりません。皆さんはこの事を強く自覚して貰いたいと思いません。



さて、大学生活4年の間に、諸君に、是非、心掛けて頂きたい事が3つあります。

第1番目に、自分と気が合う良い友人を、是非、見つけて欲しいと思います。大学時代の友人は、胸襟を開いて何でも気軽に話し合う事ができる真の友人です。楽しい事や苦しい事、嬉しい事や辛い事、互いに

率直に語り合える心の友人です。大学時代の友人は、一生続く、生涯の宝になるでしょう。皆さんが在学中に、是非、この宝を見つけて頂きたいと思いません。

第2番目に、少なくとも1つの事に熱中して貰いたいと思いません。

最近の若者は、冷めている人が多いようですが、若者である以上、秘めた情熱があると思います。自分の興味のある事、何か1つでも結構ですので、在学中に熱中して欲しいと思います。勉学でも、クラブ活動でも、スポーツでも、芸術音楽でも、ボランティア活動でもよし、また、恋愛や趣味でも結構です。どんな事でも没頭して一生懸命実行すると云う事自身、大変貴重な体験になるでしょう。皆さんが大学を卒業して社会人になると、大変忙しくなり、1つの事に熱中する時間が無くなります。学生時代だからこそ、全力で熱中できるのです。この様な経験は、必ずや、あなた方の人生の励みになる事でしょう。

第3番目に、当たり前の事に対して、素朴な疑問を感じて欲しいと思います。私達の身の回りには、当たり前すぎて、見過ごしている事が多くあります。

例えば、「地球の空は青い色ですが、何故青いのでしょうか?」。ちなみに月の空は昼でも暗黒で、火星の空はピンク系の色です。何故、地球の空は青いのでしょうか?

「ニュートンは、リンゴが地面に落ちるのを見て万有引力を考えついたといわれていますが、現在、天気予報で活躍している静止衛星は何故落ちないのでしょうか?」。ちょっと不思議です。

「1年の始まりである1月1日は、何を意味しているのでしょうか?」。カレンダーに1月1日と書いてあるので、皆さんは「明けまして、おめでとうございます」と仰いますが、その基準を理解している人は殆どいません。その基準とは、何でしょうか?



「宇宙人は存在するのでしょうか?」と、学生から、よくこの質問を受けますが、「あなたが宇宙人の一人です」と私は答えています。しかし、本当の答になっていません。是非、考えてみて下さい。

「我々人間は、何故老化するのでしょうか?」。この老化の問題は、幾つかの説がありますが、いずれも体内にある、免疫細胞を含む多くの細胞中の遺伝子が劣化する事に原因があります。現在、万能細胞に関連するiPS細胞やSTAP細胞等が世間の注目を浴びていますが、今後、万能細胞の研究が更に進展すれば、我々の遺伝子の劣化を抑制し、平均寿命が飛躍的に伸びる可能性があります。縄文時代の平均寿命は30才以下程度と考えられていますが、現在の日本人は80~90才程度です。しかし、あなた方の世代では、平均寿命が100才を超えるかも知れません。今後、皆さんは、何故老化するかという素朴な疑問を念頭において、あなた方の一生を考えるのが肝要です。

もう1つ素朴な質問を考えてみましょう。「1+1は幾つでしょうか?」この疑問については、かなり知られていますので、正解を言います。かの有名な発明王「トーマス・エジソン」が小学生の時、先生から「1+1は何?」と尋ねられたので、彼は1と答えました。彼は、左手にある1つの粘土の塊と右手にある1つの塊をくっ付けると1つの大きな塊になる事を遊びの中で知っていました。したがって、幼いエジソンにとって、「1個+1個=大きな1個」が当たり前でした。また、かの有名な物理学者「アルバート・アインシュタイン」は、ベクトル量の足し算を考えて、「1+1=0~2」と答えました。このように、「1+1=2」が当たり前と思っていると、必ずしも正しくはありません。「1」と云うものが、個数なのか、ベクトルなのか、量即ちスカラーなのかによって、答は変化します。これから

の若者は、固定観念に囚われず、柔軟な発想力が必要です。

以上の様な素朴な疑問を感じる様になると、あなた方は、自ら進んで調べる様になります。こうなれば、あなた方の勉学意欲は自ずから高まって来るでしょう。最近の学生は勉学意欲がないとよくいわれますが、この勉学意欲を高めるのは、左程難しい事ではありません。とにかく、自分自身の頭で考え、自分自身で答を導き出す事が重要です。こうなれば、あなた方の実力は飛躍的にアップするでしょう。

最後になりましたが、もう一言だけ申し上げます。一般的に、茨城大学の学生は、とても素直で、真面目で、誠意ある若者だと、学外の方から云われる事が多くあります。私も、あなた方は、思いやりがあり、学力にも優れ、かつ、情熱を秘めた、頼もしい若者であると思っています。あなた方は、一般社会や我々本学教職員の期待に応えて頂き、大学時代のうちに一段と大きな人間になって欲しいと思っています。

今日は、ここに新入生の皆様のご入学を歓迎し、これからの皆さんの健全な成長を心から願って、私の式辞と致します。今日は本当におめでとうございました。

以上

◆ 「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ2014」の開催

理学部では、平成26年4月19日（土）に、「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ2014」を開催しました。この企画は、小・中・高校生や一般市民の皆様に科学技術に親しんでいただくために開催している公開イベントであり、平成26年度科学技術週間の参加事業でもあります。今回は、「太陽系外惑星系の誕生とその姿を探る」というタイトルの講演に続き、数学情報・物理・化学・生物・地学に関する実験体験7件に加えて、茨城県立水戸第二高等学校・科学部の体験講座「不思議な窓を作ろう」を行いました。参加者数は、残念ながら昨年より少なかったものの、県内の高等学校などを中心に合計55名（小・中学生6名、高校生37名、一般12名）が集まりました。参加者は一様に楽しんでいる様子でしたが、一方で「会場が正門から奥まっけていて本当にやっているかどうかわかりにくい」という指摘もありました。理学部では、来年度以降、企画のあり方なども含め、さらに改善を図っていく予定です。

提供した企画

1. 講演：「太陽系外惑星の誕生とその姿を探る」
2. 体験講座：（1）数で遊ぼう・考えよう（2）イロイロな光の色を見てみよう（3）物質の発光のしくみ（4）旅する種（たね）のタネあかし（5）シロアリの行動観察と共生原生生物の観察（6）地球儀を作って、地球や宇宙を感じてみよう（7）台所で噴火体験（キッチン火山学）【水戸二高】『ふしぎな窓』を作ろう



講演会場の様子（上）

シロアリの観察（中）

分光器を使った光の観察（右）



◆ 図書館本館増築・耐震改修工事竣工記念式典を開催

図書館本館は、平成 24 年度から開始された増築・耐震改修工事が平成 26 年 3 月に完了し、平成 26 年 4 月 22 日（火）、竣工記念式典を同図書館ライブラリーホールにおいて開催しました。

同図書館は、4 月 4 日（金）に一部書庫を除き、先行オープンしていましたが、4 月 23 日（水）の全面オープン控え、22 日に増築・耐震改修工事竣工記念式典を開催し、文部科学省を始め学内外から 100 名を超える列席がありました。また、式典終了後には館内ツアーを実施し、多くの列席者が新しい機能を持つ図書館を見学しました。

増築・改修工事のコンセプトは、「真の教養を身につける多彩な『学びの場』としての大学図書館」であり、「多彩な学びの場」の実現のため、ラーニングcommons（自由な学びの空間）、グループ学習室（PBLスペース）、研究ブース（研究個室）が設置されています。

また、本学に関する資料・情報・映像などを展示・公開する情報発信スペースとして「インフォメーション・ラウンジ」、コーヒーを飲みながらリラックスできる空間として「ライブラリー・カフェ」、講演会等の場としての「ライブラリーホール」、本学の所蔵する美術品や古文書を後世に継承するための「貴重資料収蔵庫」なども設置されています。



来賓祝辞の長澤公洋文部科学省学術基盤整備室長



挨拶する池田幸雄茨城大学学長

◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催

茨城大学名誉教授称号授与式が平成26年4月25日（金）に事務局第2会議室で行われ、各理事、副学長、各学部長が出席のもと、池田幸雄学長から新に名誉教授となられた方々に称号記が手渡されました。

引き続き懇談会が行われ、近況報告を交えながら終始和やか雰囲気の中で歓談が行われました。

称号記を授与される大島名誉教授



平成26年4月1日付けで茨城大学名誉教授となられた方は、次のとおりです。

- (元 人文学部) 大島 一芳、金本 節子、佐々木 寛司
- (元 教育学部) 池谷 文夫、曾我 日出夫、巽 申直
- (元 理学部) 宮下 芳
- (元 工学部) 加納 幹雄、仙波 一郎
- (元 大学院理工学研究科) 小澤 哲
- (元 農学部) 足立 吉藪

以上 11名(敬称略、元所属別・50音順)



称号授与式後の記念写真

◆ 図書館本館「リニューアルオープン記念コンサート」を開催

図書館本館では、増築・耐震改修工事が完了しリニューアルオープンしたことを記念して、同図書館ライブラリーホールにて、平成26年5月17日（土）に「folklore・アルゼンチンタンゴコンサート」を開催しました。国内外で活躍する演奏家の福田大治さん、小川紀美代さん、ホセ犬伏さんの3名をお招きしました。

コンサートでは「ラ・クンパルシータ」、「リベルタンゴ」などタンゴの名曲のほか、南米ボリビアなどで演奏されるチャランゴの曲がユーモアあふれる解説とともに披露されました。土曜日ということもあって会場は学内外からの約120人の方で賑わいました。来場者からは、「バンドネオンやチャランゴなど珍しい楽器を直に聴くことができ、貴重な機会となった。」「今後も開催してほしい。」という感想が寄せられました。

またロビーでは後援の㈱サザコーヒーからコーヒーが提供され、来場者は音楽とともに楽しみました。終演後は図書館職員による館内ツアーを実施し、リニューアルした図書館を地域の方にご覧いただきました。

コンサートが開催された図書館ライブラリーホールはリニューアルを機に知の交流、地域との共生を積極的に推進する目的で新たに設けられたものです。「地域に支えられ、地域に頼りにされる大学」を目指す茨城大学にとって、この記念コンサートは地域と大学が交流する有意義な機会となりました。



演奏する小川紀美代さん（左）、
福田大治さん（中）、ホセ犬伏さん（右）



記念コンサートの様子

◆ 谷口基準教授が第67回日本推理作家協会賞「評論その他の部門」を受賞

人文学部の谷口基準教授が第67回日本推理作家協会賞「評論その他の部門」を受賞し、平成26年5月21日(水)に第一ホテル東京「ラ・ローズ」で開催された受賞式に出席いたしました。

日本推理作家協会は、昭和22年に前身の探偵作家クラブとして発足しました。その歴史と伝統から、日本推理作家協会賞はミステリー界において、権威ある賞として位置づけられております。

【受賞作品】

『変格探偵小説入門 奇想の遺産』(岩波書店、H25.9)

【谷口基準教授コメント】

日本推理作家協会賞候補には、茨城大学に着任する前の2010年(第63回)にもノミネートされました。その折に受賞できなかったことは悔しい記憶ではありますが、このたびは「茨城大学の谷口」として賞を戴けて、本当に嬉しく存じております。この受賞が、私の特殊な研究を評価して下さい、同僚としてお迎え下さった人文学部の先生方へのご恩返しとなりましたら、何よりの喜びと存じます。



受賞式の様子



受賞作品を持つ谷口基準教授(人文学部)

◆ 社会連携センター発足記念シンポジウムを開催

社会連携センターは、平成 26 年 5 月 23 日（金）、図書館ライブラリーホールにて「地域とともに生きる茨城大学—地域の未来づくりに向けて」と題する社会連携センター発足記念シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは冒頭、株式会社カスミ代表取締役会長の小濱裕正氏による「地域社会と企業に繋がる人財育成」と題する基調講演が行われました。小濱会長は企業経営者としての長年にわたる経験を基に、企業に必要な「人財」育成について、企業は大学に何を期待しているのか、様々な事例を踏まえて説明しました。

続いて現在、茨城大学が地域の抱える課題の解決のために取り組んでいる「学生地域参画プロジェクト」及び「戦略的・地域連携プロジェクト」の 2 事業から事例報告が行われました。

理学部 4 年生小沼早織さんによる事例報告「茨城県北ジオパークを通じた地域貢献」では、茨城県北ジオパークを核とする地域振興について、学生の立場で行ってきた学術的サポートを通じて、積極的に地域に入り、活動してきた成果が発表されました。

教育学部小川哲哉教授による事例報告「二つの学びが新生する公立学校」では、現在多くの自治体共通の課題となっている学校再編統合への支援を通じて、学校教育活動の活性化を図り、地域の教育力向上を目指す取り組みの成果が紹介されました。

プログラムの最後に行われたパネルディスカッションでは、「茨城大学の人材育成に期待すること」をテーマに、株式会社ケーズデンキホールディングスから小池千鶴子人事部係長、公益財団法人日立地区産業支援センターから田中正浩チーフコーディネーター、茨城 NPO センターコモンズから横田能洋事務局長をお迎えし、教育学部小川哲哉教授を加えた 4 名のパネリストが、モデレーターを務めた社会連携センターの内田聡副センター長（人文学部教授）の進行のもと、人材育成からその社会背景、社会連携までに至るまで活発な議論を交わし、盛況のうちに閉会を迎えました。

当日は地域の自治体、企業関係者を中心に 170 名を超える数多くの方々の来会を得、大変有意義なシンポジウムとなりました。



事例報告をする小沼早織さん（理学部 4 年）



パネルディスカッションの様子

◆ 教育学部教員養成課程の授業で「造形遊び」を実践

教育学部の向野康江准教授が担当する「図画工作科内容研究」という授業科目では、平成26年5月26日（月）から5日間、「風船マラカスの実がなる不思議な空間」というテーマで、「造形遊び」の模擬授業を実践しました。

今年度は、『造形遊び』における評価の定め方に関する研究を行っている富永京子先生が教育学部委託生として研修に来られています。そこで、「造形遊び」を学習する教育学部美術科2年生とともに、富永先生を交えて「造形遊び」を計画しました。それがこの教材です。カラフルな風船の色によって場や空間が変化することを予測した、いわば場の空間を変える構成的な「造形遊び」です。

風船に穀物を入れると音が鳴るのでマラカスに、木々の間にゴムで吊るすことによって木の実に、それぞれ風船を見立てました。実践後、誰もが「造形遊び」の特質を実感できました。同時に、ひとつの題材について学生と委託生の先生が話し合い、つくりあげていく行程を目の当たりにする体験は、双方にとっても大きな刺激になったようです。このように、委託生の先生と学生たちが、交流しながら学習する機会を大切にしています。



完成した作品の前で記念撮影



風にゆれる「風船マラカスの実」